

継続的教育評価・改善のための「スパイラルアップシステム」

- 愛媛大学農学部地域環境工学専門教育コースにおけるJABEEへの取り組み -

“Spiral up system” for the continuing estimation and improvement of education

- Management of JABEE program in Department of Rural Engineering, Faculty of Agriculture, Ehime University -

櫻井雄二 藤原正幸 大上博基 治多伸介 小林範之 武山絵美
SAKURAI Yuji FUJIHARA Masayuki OUE Hiroki HARUTA Shinsuke KOBAYASHI Noriyuki TAKEYAMA Emi

1. はじめに

愛媛大学農学部地域環境工学専門教育コース農業土木プログラムは、2001年度の試行、2002年度の本申請を経て、2003年4月に2002年度JABEE認定プログラムとして認められた（農業系教育プログラムとしては全国初）。2004年度には、中間審査により認定継続が決定され、JABEEを基礎とした継続的な教育評価・改善を進めている。この間、輩出したJABEE修了生は39名にのぼる。本報では、本コースにおけるJABEEへの取り組みの一環として、教育システム改善ワーキングでの議論を基に構築された継続的教育評価・改善のための「スパイラルアップシステム」を紹介する。

2. 運営組織

地域環境工学コースの運営組織を図1に示す。教育システム評価委員会には9名の学外委員が含まれ、教育システム改善委員会からの報告に対し評価や提案を行う。これを受けて、本コース教員により構成される教育システム改善委員会では、教育システム全般に関する審議・決定を行うとともに、必要に応じ各ワーキンググループ（WG）に対して検討作業を依頼する。本コースには、現在、教育システム改善WGとホームページWGがあり、前者にはさらにアンケート担当委員とFD担当委員が置かれている。アンケート担当委員は、スパイラルアップシステムにおけるアンケートの実施およびとりまとめを統括する。また、FD担当委員は、全学的に実施されるFD講習会等への参加や、他教員への報告等を担っている。

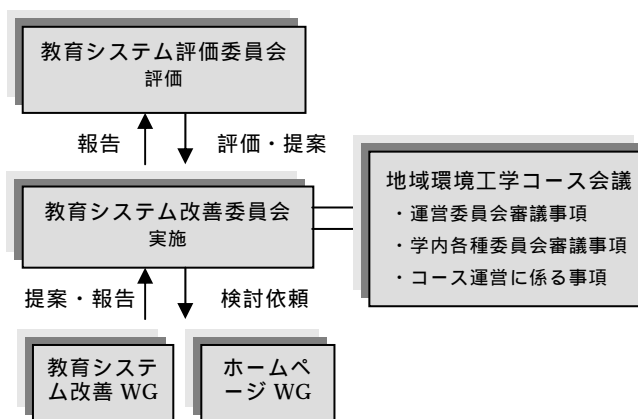


図1 地域環境工学コースの運営組織
Structure of Department of Rural Engineering

3. スパイラルアップシステム

地域環境工学コースでは、各教員の教育内容を客観的に評価する「教育評価システム」と、その結果を踏まえて教育内容の改善を行う「教育改善システム」を設け、これらを統合して継続的教育評価・改善のための「スパイラルアップシステム」を構築している（図2参照）。本システムの主なねらいは以下の2点である。

1) 教育の評価と改善

教育システム改善ワーキングのアンケート担当委員が中心となり、年度末に学生アンケートおよび教員アンケートを実施する。地域環境工学コースでは、各教員に共通の「改善目標」が設定されており、学生アンケートでは「改善目標」に基づく授業評価が行われる一方、教員アンケートでは「改善目標」に対して各教員が行った改善策が質問される。

このうち、学生アンケートでは全科目を比較評価するアンケート方式を採用し、評価の特に高い数科目の授業を抽出し、これを教育効果の高い授業として評価している。

* 愛媛大学農学部、Faculty of Agriculture, Ehime University
キーワード；JABEE、技術者教育、教育評価、教育改善、スパイラルアップシステム

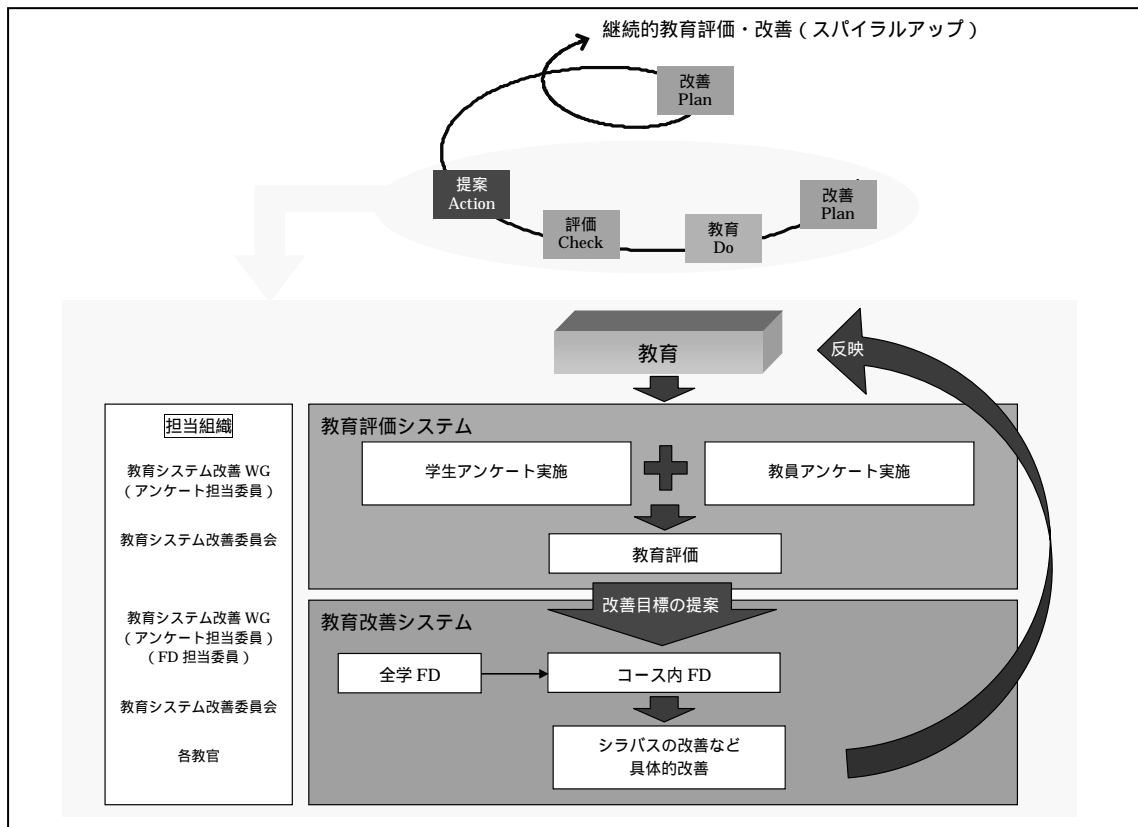


図2 スパイラルアップシステム
Spiral up system

一方、教員アンケートは、評価の高さに結びつく改善策や工夫を検討する材料として活用される。また、アンケート結果を基にした議論の中から、コース全体で共有される次年度の「改善目標」が設定される。各教員は「改善目標」に基づいて担当する教育内容の具体的な改善策を検討し、実行に移す。なお、平成16年度の「改善目標」は、「学生が達成感を味わうことのできる授業を行う」であった。このようなプロセスが毎年度繰り返されることにより、教育内容が継続的に改善されることとなる。

2) 教員の評価と質的向上

スパイラルアップシステムでは、学生アンケートにおいて評価の高い授業を行った教員そのものを評価するとともに、教員アンケートにより各教員の教育改善に向けた取り組み状況を点検し、この両者によって各教員の教育貢献度を総合的に評価している。ここでは、各教員が当該年度の「改善目標」の下でどのような具体的改善を実施したのかが、重要な評価項目となる。

また、教員の質的向上を図るためのコース内FDとして、教員アンケートを土台に各教員の教育改善に向けた取り組みを共有し、教員相互のスキルアップにつなげている。さらに、FD担当委員により、学内外で実施されるFDへの取り組みについて情報収集が行われ、教育システム改善委員会に報告される。なお、FDについては、昨年度より愛媛大学農学部全体でも委員会を立ち上げ、講義の相互参観やビデオでの講義撮影とそれを用いた自己点検等に取り組んでいる。このようなコース以外で行われているFDプログラムも、本コースの教育改善への取り組みの一つとして位置づけ、スパイラルアップシステムの中に組み入れている。

4. 今後の展開

本システムは、取り組みの積み重ねにより効果が発揮されるものである。今後は、教員間のみならず学外組織との連携を深め、よりよい教育システムの構築に努めたいと考えている。